

総務委員会行政視察報告書（令和元年 11 月 12 日～11 月 14 日）

日 時：令和元年 11 月 12 日 13 時 30 分～15 時 30 分
視 察 先：青森県弘前市
視察事項：『シティプロモーションの取り組みについて』
<p>内 容</p> <p>弘前市は、観光都市とも言われており、現存天守の弘前城、百名山の岩木山、世界自然遺産の白神山地など、たくさん見どころがある。また、リンゴの生産、弘前さくらまつりの人出など、日本一がたくさんあるまちでもある。</p> <p>平成 23 年に弘前城が築城 400 年を迎えるに当たり、弘前城築城 400 年祭を開催し、実施事業数が 141 件にものぼり、市民や民間等の機運醸成、盛り上げりを継続させるため、平成 24 年度から本格的にシティプロモーションに取り組むことになった。8 月には、弘前市シティプロモーション推進方針を策定、市の魅力の創出と掘り起こしを行い、国内外に向けて戦略的に情報発信することで、市のブランド力や認知度を向上させ、交流・移住人口の増加や観光産業を初めとする産業全体の活性化を図ることを目的としている。</p> <p>キャッチコピーは、「いいかも！！弘前」。ロゴマークは市が作成するポスター、パンフレットに使用するほか、民間を含めて利用してもらい、統一的に PR を行っている。「弘前には、自慢できるものがたくさんあるが、あえてそれを控え目に PR することで、主張し過ぎない奥ゆかしさ」を出そうというコンセプトである。また、ロゴマークのデザインは、弘前市と言えばさくらまつりが有名であるので、桜のスタンプを思わせるような形にした。との説明があった。</p> <p>また、観光・食・伝統工芸など、市の魅力をまとめたシティプロモーションブックの作成や、弘前の高校生・大学生が地元の商店街のポスターを作成する弘前ポスター展、高校生をユーザーにして魅力の発信をするなど、弘前市の魅力を創出する様々な取り組みについて調査を行った。</p>
<p>視察を終えて</p> <p>市長をトップとして職員一丸となった情報発信を行い、各地でのトップセールスや職員の出張・研修など、様々なネットワークを活用して弘前の魅力を国内外に発信している。今回説明を伺った、ふるさと魅力発信担当は、自治体研修制度を活用し、一年間に渡り電通で研修を受け、学んだことを生かして仕事に取り組み、職員にも還元しているとのこと。また平成 24 年には、電通から 1 名の社員が一年間研修に来ていたのも生かされているようだ。</p> <p>弘前の強みを生かしたふるさと納税の取り組みとして、国内の 4 分の 1 のシェアを誇るりんごや、桜などの知名度の高い資源と絡めたプロモーションをしており、リピート率が高くなっていることもうなずけた。</p> <p>インスタ映えを考えたフェイスブックなど、SNS の活用や、全国メディアへのプレスリリース配信で、様々な観光情報をテレビ・ラジオ・新聞社・ネットニュースに掲載して、観光客の入込数の減少を抑えるなど、多くの取り組みが生かされており、とても参考になった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

総務委員会行政視察報告書（令和元年 11 月 12 日～11 月 14 日）

日 時：令和元年 11 月 13 日 13 時 30 分～15 時 30 分
視 察 先：青森県むつ市
視察事項：『シティプロモーションの取り組みについて』
<p>内 容</p> <p>むつ市は、本州最北端、青森県北東部の下北半島に位置し、南北約 35 km、東西約 55 kmにわたっている。北は津軽海峡を隔てて北海道を望み、南から西にかけては、陸奥湾及び平館海峡を挟んで青森市などの各市町村と面している。面積は、青森県全体の約 9%にあたる 864.16 km²であり、県内で最大の行政区域となっている。</p> <p>「むつ市のシティプロモーションは、人口減少に歯止めをかけたり、交流人口を拡大したりすることを目標にするのではなく、その取り組みを通じて新しい価値を創造し、地域に希望ある未来をもたらすことを目標にしています。そして、特産品、絶景や遺跡など、地域にある様々な資産一つ一つを結びつけた新しい価値の創造に取り組んでいます。」と市長が話しているように、地域にあるものを生かしていくことや、ないものをチャンスと捉えチャレンジしていくことで、地域に住む人々が自らの地域の未来に希望を持つような取り組みを行っている。</p> <p>生産量が少ないホタテなどの地域資源のデメリットを、希少価値としてメリットと捉え、客単価の高いホテルや飲食店などの小規模でも安定した売上が見込める販路を開拓するなど、戦略的かつ効果的なプロモーションにより地域ブランド力の向上を図っている。また、国内市場が減少することを見込んで、シンガポールにおいて、産・官・金の連携により販路開拓に取り組むなど、地産地消を積極的に推進するとともに、攻めの販路拡大策「地産外商」の推進とふるさと納税制度を活用し、市製品の消費拡大を図っている様子などを調査した。</p>
<p>視察を終えて</p> <p>むつ市役所本庁舎に到着して目を引いたのは、倒産したショッピングセンター跡を、市役所本庁舎として改修工事し、その外観の素敵さ、そして、建物内部は広いワンフロアで、高齢者や障害者や幼児等、すべての来庁者にバリアフリー化などで配慮した空間が整備されており、発想の転換に驚かされた。</p> <p>むつ市は、地域の特性を生かした産業振興、特に物産振興に特化したシティプロモーションを行っており、地域特産品活用事業として、海上自衛隊大湊基地所属の艦艇等のカレーレシピを直伝されたものを忠実に再現した、大湊海自カレーを市内の 10 店舗で、平成 29 年 6 月に提供を開始し、令和元年 10 月現在では、42,000 食 で 5,000 万円の経済効果があったとのこと。また、航空自衛隊 42 警戒群の味を再現し、1 個 70 g の大きさが特徴の鶏の唐揚げ（大湊 Sora 空っ！）や、金太郎飴のように、どこを切っても同じ絵が出る、郷土料理「べこもち」を、首都圏で展開する「デコもち」とコラボし、べこもち文化の伝承と全国に発信することを目的とした事業などを視察し、とても参考になった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

総務委員会行政視察報告書（令和元年 11 月 12 日～11 月 14 日）

日 時：令和元年 11 月 14 日 13 時 30 分～15 時 00 分
視 察 先：岩手県北上市
視察事項：『シティプロモーションの取り組みについて』
<p>内 容</p> <p>北上市は岩手県の中央部、北上盆地の中程に位置し、東西に約 38km、南北に約 34km で面積は約 437.55 k m²。北上川と和賀川が合流する肥よくな土地に美しい田園地帯が広がり、西に奥羽、東に北上山系の山々が連なる豊かな自然に恵まれており、農業と工業のバランスがとれた、活気ある都市として注目を集めている。</p> <p>人口減少時代においても、将来に渡って豊かで安心できる持続可能なまちの実現のためには、人口を取り合う都市間のセールス合戦だけではなく、主体的にまち育てに参画する人をいかに増やすかといった視点が重要だとしている。</p> <p>そのためには、北上市自体が良質な都市イメージをもって捉えられることで、一人一人がまちに積極的に関わっていく環境を作ることが必要で、まちに関わる人々がまちの本質的な魅力を再認識し、このまちを自分事に思う人が増えることで、魅力ある都市形成につなげていくことを目的に、シティプロモーションの推進に取り組んでいる。</p> <p>北上市が持っている様々な資源を土台に、これからのありたい都市のイメージを定め、市民等シティプロモーションの担い手がこれを意識して、統一感を持って取り組むことにより、都市自体の魅力や個別資源の魅力を高め、他の都市と差別化された価値が多くの人に認知され、良質な都市イメージが形成されたまちとして、都市のブランド力を高めることを目指している。</p> <p>今回の視察では、シティプロモーションを効果的に推進するための取り組みなどを調査した。</p>
<p>視察を終えて</p> <p>北上市は、おおむね小学校区と同一の 16 の地域づくり組織が中心となり、地域づくりを進めている。各地区はそれぞれの特色を生かしながら、住民が主体となって地域づくり活動に取り組んでおり、それぞれの地域が独自の資源を生かして自立した地域として咲き誇り、相互に連携することによって生き生きと持続的に発展できる都市の姿をイメージした「あじさい都市構想」をベースにした、地域コミュニティを推進している。</p> <p>また、日本有数の民俗芸能団体数を誇る北上市は、鬼剣舞をはじめ、鹿踊や神楽などの民俗芸能が集落ごとに残っており、毎年 8 月に開催される「北上・みちのく芸能まつり」では、100 を超える芸能公演が披露され、伝承を通じて生まれる地域の交流で、気負うことなく、楽しみながら文化を伝え継ぐ人々が、まちの元気の源となっている。</p> <p>そして、藩境のまちとして培ってきた「ヨソモノを受け入れる文化」や企業誘致などを先駆ける「前に進み続ける精神」なども、とても参考になった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。